

授業科目

スポーツサービス産業論

担当教員名 山本 悦史	対象学年	3・4	対象学科	スポ
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		

授業の概要

生涯スポーツの時代を迎え、人々のスポーツに対する消費行動やスポーツのビジネス化が加速的に進んでいく中で、スポーツは産業の一大領域として認識されるまでに変貌を遂げました。本授業では、スポーツ産業が直面する諸問題や将来展望に関する理解を深めていくために、スポーツ産業の構造やその発展プロセス、スポーツサービスの特性に関する様々な視点について学ぶことを目的としています。また、これらの学びと並行し、経済のグローバル化が抱える問題や企業の歴史および形態、雇用システムや社会保障制度等の内容に関する基礎的な知識を習得することで、社会・企業・労働といったマクロな観点からスポーツを見つめることができる幅広い視野を身につけることを目指します。

授業の目的

1. スポーツサービス産業、さらにはスポーツ産業全体の特徴および変遷について理解する。
2. 社会・企業・労働等の観点からスポーツ産業の現状を批判的に論じることができるようになる。

学習目標

1. スポーツ産業の全体像やこれらを構成する諸領域について、具体例を挙げながら説明することができるようになる。
2. スポーツのビジネス化に見出される可能性およびその課題について具体的かつ論理的に説明することができるようになる。
3. わが国の企業組織や雇用システム、社会保障制度等の特徴について理解した上で、スポーツ産業の特殊性や問題点について自分なりの見解を述べるることができるようになる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	スポーツを「シゴト」にするとはどういうことか (スポーツ産業の全体像とその分類法)	講義	山本 悦史
2	スポーツはいかにして「産業」になったのか (スポーツ産業の歴史と変遷)	講義	山本 悦史
3	スポーツにはどのようなビジネスチャンスが存在するのか (スポーツサービス産業の現状と課題)	講義	山本 悦史
4	Jリーグはなぜ「百年構想」を打ち出したのか (スポーツビジネスのトリプルミッションとスポーツ文化)	講義	山本 悦史
5	海外のプロスポーツはどのような仕組みで運営されているのか (プロスポーツリーグの国際比較：組織構造および収益構造に着目して)	講義	山本 悦史
6	オフサイドはなぜ反則で、柔道着はなぜ青くなったのか (スポーツと社会の関係性)	講義	山本 悦史
7	日本人選手の海外移籍はなぜ活発になっているのか (スポーツ経済のグローバル化とスポーツ労働移民)	講義	山本 悦史
8	スポーツ消費者は何を「消費」しているのか (スポーツ産業にみる「消費社会の神話と構造」)	講義	山本 悦史
9	オリンピックは開催都市にどんな影響をもたらすのか (メガスポーツイベントと都市空間)	講義	山本 悦史
10	スポーツ選手の年俸にはどうして差が生まれるのか (スポーツにおけるダイバーシティマネジメント)	講義	山本 悦史
11	スポーツ組織を運営している「公益法人」「株式会社」とは何か (スポーツ企業の実態とその基本的な考え方)	講義	山本 悦史
12	プロ野球の統一球問題はなぜ「問題」になったのか (スポーツにおける資本概念とスポーツガバナンス)	講義	山本 悦史
13	プロスポーツ選手は「労働者」なのか (選手契約とスポーツエージェントをめぐる問題)	講義	山本 悦史
14	競技を引退したスポーツ選手はどのような人生を歩んでいるのか	講義	山本 悦史

	(スポーツ選手のセカンドキャリア問題)		
15	スポーツサービス産業はこれからどうなっていくのか (スポーツの公共性とスポーツサービス産業の未来)	講義	山本 悦史

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	現代スポーツ産業論ースポーツビジネスの史的展開とマネジメントを中心にー	渡辺保	杏林書院	2004年	2,400円+税	
	スポーツ産業論〔第5版〕	原田宗彦	杏林書院	2011年	2,500円+税	
	スポーツビジネス最強の教科書	平田竹男	東洋経済新報社	2012年	3,900円+税	
	よくわかる産業社会学	上林千恵子	ミネルヴァ書房	2012年	2,600円+税	
その他の資料						

評価方法

1. 期末試験 (70%)

授業内容の理解度と文章力・説明力、また授業を踏まえた自己の学びの課題設定などについて判定します。

2. 授業中の取り組み (30%)

授業中に記入するコミュニケーションペーパーの提出状況および内容を踏まえて評価を行います。

3. 自学自習 (加点)

学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付けます(「スポーツ産業」や「サービス産業」等に関連する書籍や論文、新聞記事等の要約とそれに対する自分の意見や感想、指導現場やボランティア等の「スポーツ現場」における実践報告等)。授業で取り扱っている内容と関わりが深いものほど高い点数を加点します。様式は自由ですが、インターネットからの転用は認めません。提出回数と内容によって評価し、通常評価に加点します。

履修上の留意点

授業内容の理解を促進するために、日頃からスポーツに関する新聞記事や雑誌記事に気を配り、スポーツの新しい動き(たとえばプロスポーツ組織の経営やクラブ運営に関わる事例、スポーツに関する法律や規則の改正、スポーツイベントをめぐる問題、学校や地域でのスポーツ活動の工夫など)に関する情報を取り入れるような習慣をつくっておくことをおすすめします。

オフィスアワー・連絡先

毎週火曜日 12:10-13:10 etsushi-yamamoto@nuhw.ac.jp

※上記以外の時間でも事前にメール等でご連絡をいただければ対応します。